

幼児の交友関係の考察



《研究発表》

村井トミ

幼児の交友関係というと随分巾の広い問題であるが、ここでは次の五つのことについて考えてみたい。

(1)入園時まだ遊べない子供達が、この一年の間にどんなグループをつくっていったか。

(2)日頃子供達の話題にのぼる友達是谁だろうか。又、その話の内容はどんなことか。

(3)子供達は組の中でどういう友達が好きだろうか。又は好きでないか。

(4)家庭での交友はどうだろうか。

(5)父母の社交性はどうだろうか。子供の社交性と関連があるかどうか。

○問題として取りあげた理由

昨年の四月、私は四才児の担任となった。新入の子供が二〇名、三才よりあがった子供が十八名（三才の時は他の先生が担任であった）合せて三十八名である。更に、組の編成が生年月日により分けてあるので、九月より三月迄に生れた年少の組であった。幼い者のあつまりのためか、一人っ子と末っ子が多かった。為か或は偶然か、とにかく友達と遊べない子供が目立って多かった。

（三十八人中、一人っ子十二人32%、末っ子

十五人39%を占めている）

それで友達とあそばせることに苦勞をしたので、ここにとりあげて皆様から、御経験や御指導を頂きたいと思うのである。

○この一年に交友を深めるために取った方法
・ 先ず何よりも子供達に対して注意深い観察が必要と思ひ、気をつけるようにした。

・ 子供達の自然の結びつきを理想としたので私の方から皆をさそって遊ぶようにした。そして色々の遊びや仕事の中で何か友達になるきっかけが出来ることを願った。

腰かける席は当分どこでも好きな所に腰かけることにした。すると毎日大体同じ友達と並んでいる者（友達が出来かかっている）とその時、その場に友達とは無関係に腰かける子供がいる。

幼稚園生活が一日一日と過ぎていく中に、次第に出来る仲よしが一組でも多いとほっとして喜び乍ら、子供の帰った後、まだ遊べない残りの子供達を頭の中で整理してみる。

・ 何か仲よしになるきっかけはないかと、家庭票を調べたり、通園してくる方向や兄弟関係、保護者同志の関係、おけいこ等について調べてみる。

そして何か関係があれば、何となく同じ遊びにさせたりする。こちらで何かのきっかけをつくらうとしても、性格にもよるし、無駄に終わってしまうことも随分多いが根気よく試みる。

・更に今度は席をきめてみる。

大分子供達の性格もわかってくるので、出来かけているグループは、それをまとめる意味から席をならべてみる。個々別々の子供達は仲よしになって丁度よさそうだと思う相手と席を一緒にしてみる。

この様に環境から自然にまとまるようにしむける。

・ぼつんと立っている子供には誰と遊びたいか、きいてみる。案外誰かと遊びたいと思っ

ていても仲間に入れない子供もいる。

・勿論交友の理想は或る限られた友達とばかりでなく、いつでもどのグループにも這入って遊べることだと思ふ。しかし、急にはなかなか出来ないで入園後の一年は大きく観て、一人ぼつちでなく誰かと遊べることを念願した。

尚、三才から来た子供と四才で這入った子供が一体となって遊べるように努力したそのた

め子供達のよろこぶごっこ遊び(例えば幼稚園ごっこ)など一緒に大勢であそぶ様にした。

この様に心を悩ましても成功したりしなかつたりで、がっかりすることもあるが自然にまかせて放っておいてよいものではないと思う。

○この様にして一年の間にどんなグループが出来ていったか

《一学期》

一学期に出来たグループは殆ど二人のグループで、一組だけ四人のグループが出来た。

二人のグループでも七組位で約十四人、あと出来かかっている中に夏休みになった。一見、よく遊んでいるように見えていて、よく見ると個人々々であるものが十八名で約組の半分。さそつても応じない子供が六人いた。

《二学期》

二学期になつても大体は二人のグループが多く、末頃になつて三人、四人というのが、ぼつぼつ見えはじめた。

グループは十二組位あり、約二十八人、あとはさそえば参加するが、さそわなければ、一人の時の方が多いものが六人、いつも一人で遊

んでいるものが三人である。

《三学期》

三学期になると二つのグループが一緒になつたり、又仲間に入らつたりして三人、四人、五人のグループが大分出来てきた。

二月の末頃になると、先学期には一人ぼつちだった三人の中、二人は仲間に入ることが出来たし、他の一人も大分仲間入りが出来るようになった。どうしてこの三人が最後まで残ったのか考えてみると、一人は、めつたに口をきかない子供であり、一人は内気で家庭

でも近くの友達が見えると泣き出してしまふということも母親からきいている。

一人は女の三人姉妹の末っ子で大体無口でおとなしい子供であった。

《五才になつて》

一年たつて五才になつた今、この四月、五月の二ヶ月で子供も年長組という自覚のためか心身共に急にのびてきたように思われる。五人までのグループだったのが、遊びによって二つ、三つのグループが一緒になつて、男の子は十人から十二人のグループ、女の子は六人から八人位でよく遊べるようになった。一年前は二人のグループがやつとだったのが

今二人だけのグループが二組位になって、ほっとした気持でいる。

○グループが出来たきつかけはどんなものがあったか

一人一人について考えてみると、つまらないほんの一寸したことがきつかけとなっていることが多い。

私の組の場合に挙げられることは、

交通機関が同じである(一緒に帰る。よく途中で逢う)
幼稚園以外のどこかで逢ったから(愛育会で逢ったと
お銀座であった等)
名前が同じだから

遊びがきつかけで(汽車のお弁当やさんから
おけいこが一緒だから
席が並んでいるから
何となくすきだから

友達がさそってあげたから等の様である

○グループの種類はどんなのであるか

《性別》

幼稚園位の年令では男女一体となっているの
かと思つたが、出来たグループは、やはり男
の子は男の子、女の子は女の子と遊ぶことが
多い。勿論、男の子もままごとのお父さんに
なったりもしているが、全体からみると生活
の一部分でしかない。三才の時の様子をみて
も、やはり同性と遊んでいる時の方が多い。

しかし談話でもリズムでも、仕事でも食事でも、一緒にする機会が沢山あるから、自由あそびのグループは同性にかたよつても無理に交えることもないものと考えられる。

《兄弟関係》

兄弟は四人兄弟というのが三人、三人兄弟は五人、二人は十八人、一人子は十二人であり長男や長女は七人、末っ子十五人である。

最初に一寸ふれた様に一人と末っ子が組の71%を占めている。

グループをみると、一人っ子と一人っ子、末っ子と末っ子、一人っ子と末っ子、などが一つの仲間になっていることが多い。長男、長女が七人いるが、この子供達の中四人は同じグループである。

しかし一人っ子や末っ子が多いので偶然こんな形になったのかもしれないし、私の組だけでは何とも言えない。

《智能指数》

昨年の調査(田中ビネー)では、最高一五三最低一一四であるが、グループ毎にしらべてみると、特に高い者同志、又は低い者同志とどうかたよつた結果は出てこなかったので安心した。

《三才からいる子供と新しくはいった子供》
はじめ互になれない中は別々であったが、二学期頃から大分交つて遊ぶ様になった。

現在はグループも大きく遊ぶ様になってきたので大分心配はいらなくなってきたのでよるこんでいる。(これは子供達だけでは出来ないことで、母親達もかたよらずに交際する様に日頃からよく話をした。しかしまだ親の方が子供よりもかたよっている様である)

男女を比べると、男の子の方が、さっぱりしているのが殆どといつてよい位よくまざつてゐる。女の子は半分以上はよく交つて遊ぶが一部にかたよつたグループも見られる。

○グループのメンバーは変わるかどうか

この一年の間最初から変化のないもの、と、一定の期間仲よくして後変化するもの、の二つが考えられるが、大体に変化のない者の方が多い。

一学期仲よくしていたものが夏休みを過ぎて二学期になると少しも遊ばず、他の友達と仲よくする例も三つ程あったが、他は大体同じといつてもよく、成長するにつれて小さいグループが一緒になって大きなグループとなつて遊ぶものが多い。

○遊びや仕事の種類によってグループのメンバーが異なるかどうか

遊びの場合はグループのまま動いて行く場合が多い様に思われるが、仕事の場合は一概には言えないと思う。

こちらとしては仕事への導入の場合にグループを利用することが多いのだが（その中の一人をさそうとそのグループが皆くることがよくある）こういう時、遊びも仕事も同じメンバーでは発展性が少ないのではないかと一応心配になる。しかし一つのメンバーが同時に仕事を始めて同時に終るのではなく、終る時は個人の興味によって個々別々であるから更に新しいメンバーが少しづつ加って交替するのでその心配はいらないわけである（仕事のグループ指導）

又、リズム遊び等をも友達に関係なく自分のなりたい役になっているということをもいとも感ずるのである。

○調査紙

そこで一年たった今、ABC Dとして左の四つの事について家庭に調査紙を出してみた。

A 家庭での交友について

B あなたのお子さんが日頃よく話題にする幼稚園の友達

について話題に出る友達の名

話の内容（よい話でも悪い話でも）

C 組の友達についてお子様におきき下さい

（一体この位の年齢の子供は組の友達をどう考えているのだろうか。）

入園当時にきいたとしたら恐らく眼の前に見える友達や今迄あそんでいた友達を答えるだろうと想像される、しかし一年たった今、案外子供の観察も正しいかもしれない、又私の眼にふれない内容が浮んでくるかもしれない、という考えから調査してみた

山の組の友達で好きな人は誰？

（どうして）

山の組で好きでない人は誰？

（どうして）

好きでない人というのと、きらいな人というのと結局は同じであるが、日頃から、友達に好ききらいなく誰とも遊ぶように指導しているの、せめて好きでない人という事にした（苦しい立場）

尚、先程言った様に偶然性の答かどうかを調べるために家庭でしらべてもらう他に、私が幼稚園で一人一人にきいてみた（子供が一人である様な時に何気なくきいてみた）

D 父母の社交性について

（この記入は、自分のことはよくわからない場合もあるのでは父を、母は父を批判してもらう様にした）

（父母の消極性、積極性が子供に関連しているかどうかを調べてみたかった）

父母各々について積極的か消極的かその理由として

考えられること。

幼い頃はどうかだったか。

以上の四つについて調べてみた。

ABD は母親に記入してもらい、C は子供か

らきいたまを記入してもらった。

○調査のまとめ

そこでこれをまとめてみると

A、家庭での交友について

家庭で友達と遊ばない者 九人

家庭で友達と遊ぶ者 二十八人 である

理由としては、

遊ばない方は
環境が悪い（のと同じ家庭が少ない）四
同年令の遊び相手がない 二
話が合わない 一（幼稚園がちがうため）
兄弟と遊ぶから必要ない 一

遊ぶ方は

近所の友達 二〇人

幼稚園の友達とだけ 八人

どんなことをして遊ぶか

ままごと、お絵かきが一番多く、あとはここにあげる順になっている。

- ① ままごと・お絵かき
- ② 本よみ・鬼ごっこ・かくれんぼ・人形あそび
- ③ 電車ごっこ・砂あそび
- ④ ゲーム（カルク・トランプ）
- ⑤ 積木・自動車・三輪車
- ⑥ 刀剣あそび・ブランコ
- ⑦ 縄とび・まりつき・土いじり・石けり
- ⑧ 学芸会ごっこ・学校ごっこ（幼稚園ごっこ）
- ⑨ 野球・スベリ台・ガマ蛙とり・おどろ・ぬりえ・ピアノ（ピアノ等はおけいこしている人が多いのだが、記入する母親が、あそびと考えていない為、一番少ないのではないかと思う

一人でと兄弟とあそぶ時とどちらが長いか。

友達と遊ぶ方が長いという方が少し多かった

結局、家庭で友達とあそばない子供九人の
中、七人は幼稚園で遊べない子供であった。

今は遊べるようになったがなかなか仲間に入りにくく、私に気をもませた子供であるので驚いてしまった。

この七人の中一人っ子が二人、末っ子四人である。やはり一人っ子や末っ子に多いと言えようである。

親の方からは、よく近所に友達はいるが言葉が悪くなるとか、悪い影響がいろいろあるので遊ばせないという話をきく。又、心理の先生にうかがうと同年令の友を求めているのだから遊ばせない方が、もっと悪いと言われよう。本当にそうだということがはっきりしたような気がした。

B 日頃、話題に出る友達と、話の内容について

男女に分けると、

男の子十九人中十六人について話題があがっている。

A (十一人が話題にしている) 大きい、高い、お兄さんみたい、強い、お利口さん、遊びの様子

B (七人が話題にしている) あそんだこと、おべん当おそい、おべん当箱大きい、何となくき

C (七人が話題にしている) よく泣く、食べ物にすぎきらいが多い、小さい、おむかえが来ないとベソをか

D (六人が話題にしている) 面白いことを言う(ひょう

きん)物しり(むずかしいことをよく知っている)強い、高い大きい声、スキップがとても早い、あそんだこと

E (五人が話題にしている) 小さい、かわいい、おとなしい、スキップがよく出来ない

F (四人が話題にしている) おかたづけをよくする、らんぼう、あそんでくれる、スキップ等について

その他五人の名が出ている。

悪いことばかり出ているのはこの中三人あり、押すとかいじめる、後から来て運転手になる等。

女の子は十九人中やはり十六人について話題があがっている。

A (十一人が話題にしている) 小さい、泣き虫、妹みたい、御飯こぼす、かわいがってあげた

B (八人が話題にしている) お姉さんみたいによく面倒をみる、いろいろのおけいこをしている、お母さんが先生、一寸さわると泣き、みんなはあやまる

C (七人が話題にしている) 絵がとても上手、かわいい、かみの毛がワンワンみたい

D (六人が話題にしている) いつもままとでお母さん役になりたくてけんかしたりする

E (六人が話題にしている) やさしい、にこにこしている、えらい

F (三人が話題にしている) ビアノ上手、毛が長い、かわい、赤ちゃんみたいな言葉

三人以下一〇人についてあがっている、洋服やエプロンについて言っているのは一人だけである。

悪いことばかりあがっているのはこの中二人あり、お母さん役をゆずらない、いじわる等。

この調査で子供達がよく友達のことを家庭でも話題にしていることがわかる(きかないと

言わないというのが二人あった)そして特徴をよくつかんでいて、本当に、この通りである。小さくても子供の言うことは卒直で尊重出来ることだと思つた。

尚、ここで私が日頃眼にとまらず、知らないでいることが出てくるかもしれないし、出てくればよいと思つていたが、その様なことはなかった。

C 組の中で好きな友達、すきでない友達

理由について

好きな友達

男の子十九人について十六名があがっている

A (八人が好きと言っている) 男の子の約半数に好かれている

B (五人が好きと言っている) 男の子の約四分の一

C (五人が好きと言っている) 男の子の約四分の一

D (四人が好きと言っている) 男の子の約五分の一

E (四人が好きと言っている) 男の子の約五分の一

F 他三人、二人、一人という様に七人の名

女の子十九人について十六人の名があがっている

A (二〇人が好きと言っている) 女の子の約半数に好かれている

B (六人が好きと言っている) 女の子の約三分の一

C (六人が好きと言っている) 約三分の一

D (五人) //

E (五人) //

F (四人) //

G (四人) //

H (四人) //

合せてみんな好きと答えた者三人
好きでない友達

男の子十二人の名があがっている

女の子九人の名があがっている

きらいな人はないというのが六人

好きでない方では男の子は、A B Cの三人が多くての者か
らすかれていない

A (九人にすかれない)

B (八人) //

C (八人) //

好きでない女の子の方は、A Bの二人がはつきりしてい
る

A (五人にすかれない)

B (三人) //

理由について

(好きな理由の主なもの)

よく遊んでくれる

けんかをしない

やさしく親切

かわい

その他

右の中でよく遊んでくれるからというのが一
番多い。

(好きでない理由の主なもの)

いじわるをする

乱暴をする

人の物を取上げたりあそびのじゃまをする

泣虫だから

鼻をいづつたらしめているから

その他

右の中で、乱暴だから、いじわるするからが一番多い

こうしてみると、好きなもの、好きでない者
の多くは話題に出ている主であった。

幼稚園で私が一人々々について同じことをき
いたのに対してくらべてみると

同じ答えをしているもの 二六人

すきらいどちらかが同じもの 四人

全くちがう答をしたもの 四人

欠席で一方的にしか答をえられなかったもの 三人

右の様に殆どが同じ答であることがわかった
今迄は子供達がどの程度、はつきりと友達を

批判しているかという事が疑問であったが、
こうして両方をくらべてみて、この時のゆき

当りばつたり答をしているのでないとい
事ははつきりわかった。

D 父母の社交性については

積極的な父 一五人 // 二八人

消極的な父 一三人 // 二八人

中間 母 二人 // 三九人

母 父 三人 // 七人

右の様に積極的な父母、二人に対し、消極的な父母、
三九人で、これでは子供のことは言えないと何だ

かおしくなつた。

更に父母共に積極的なもの 四組

// 消極的なもの 八組

その他はどちらか一方が消極的、積極的となつてい
る

原因として考えられることを拾つてみると

積極的の方は

①育つた環境上(交際家の家だった。人に接する機会が
多かった。教育者の子など)

②現在の職業上

③性格

④教育上その他

消極的の方は
①性格(内気、無口)

②育つた環境

以上が主で、話し下手、経済上、多忙のため、職業上手
である

父母の幼い頃はどうか

・交らない者が多い

・交つたものでは、幼い頃積極的だったのが積極的な
つた者六名(父親が多い) 幼い頃積極的だったのが消極
的になった者四名(結婚後の環境等で母親に多い)

そこで幼稚園でなかなか友達と遊べなかつた子供に
ついて調べてみると、主として母親が消極的である者が多
いのに驚ろいた(九人中例外が三人あるが、あとの六
人は母そっくりである)

母親自身が幼い頃

いつも一人で遊んでいた

家の中ばかりにいた

恥かしがりやで名前も隣に言えなかつた

小さい頃内気がひどかつた

泣虫で一つ年下の妹と一緒にないと幼稚園へも行けな
かつた

学校では思った事が発表出来なかつた

六人共それぞれ記録されている

よくこの子は私の小さい頃にそっくりで困ります等とい
う話をきくと、それが果してどの程度であるか、今度し
らべてみて驚いた。

二学期の終り頃にしたいと思っている。

2、普通の公立小学校の場合は、自分の名前がわかる程度でよいが、特殊小学校へ入学を希望する場合にはそれでははいれない。かなり高度のテストがあり、幼稚園で教えないと家庭で方々のテストに連れていく。大学の附属小学校でも同様で、心理学者の意見と実際とは、矛盾しているようだ。

3、三年前には自分の名前ぐらいを教えてみた。二年前からは、ひらがなを教え、昨年からは、連絡会の結果教えなかったが、こんどは小学校の進み方が早くて子供がまごついてしまった。無理に教えこまずに、自ら事物をおして教えている。

4、自然な動機から、例えば看板や名前などから教えていく。

5、幼稚園は知識を教えるところではなく、生活経験を豊かにしていくところである。ある段階にまで発達している子供にはよいが、そうでない子供に無理にやる必要はないと思う。

菊池　ここでは、小学校からも何も要求してこないし、文字を文字として一斉に教えるということはやっておりません。しかし、生活を豊かにし、又刺戟を与えたりして、子供たちが自分から自発的に、文字を覚えたいと思うようになってくれることを願いながら、絶

えず環境を工夫したり、しむけ方を工夫したりしています。

例えば、黒板に日や曜日を書いておく、とか携帯品置場に各幼児の名前を貼っておく、などもこの気持からですし、又七夕祭りの時など、短冊に字を書いてお星様に上げると字が上手になるんですって、などと伝説を聞かせながら子供たちの文字に対しての関心をいくらかでも目覚めさせようとは絶えずいたします。

×

×

×

×

(41頁よりつゞく)

松村明　親しみを乱雑な言葉づかいによって増すというのは、一応、言葉づかいと切離して考えるべきで、先生方は、地方の特色もありましょうから一概には言えませんが、出来るだけ正しい言葉で話して頂きたいと思います。

司会　両先生にはお忙がしい中を、又、先生方も最後まで御熱心に御発言・御討議を頂きまして有意義に終ることが出来、まことにありがとうございます。

(21頁よりつゞく)

○これから卒業までの一年をどの様に指導したらよいか。

とにかくどうやら遊べるようになったのでうれしく思うが、これからの一年間は更に一歩進んだ交友の指導をしなくてはならないと思う。

いつも限られたメンバーのグループであったはいけない。

性格的にも能力的にもかたよらぬ為。

席を時々変えたり、あそびの指導を工夫したり、五才児なら出来るグループの協同作業など、いろいろ考えていかなければならないと思う。

そして、いつも友達と一緒に遊べば遊びも仕事も遣入れない、というのではなく必要に応じては、一人でも落着いてすることが出来るし、遊ぶ時はどんとどんの仲間にも遣入って遊べるというようになる事を理想としていきたいと思っている。

以上つまらない事ばかり述べたが、過去一年間の、しかも自分の組だけの考察なので、必ずしも正確でないかもしれない事をお断りしておく。(お茶の水大附属幼稚園教諭)